

同期会だより

田川東三六会 in びわ湖

私たちの同期会は過去五回開催されています。今回は大津・びわ湖に旅をしました。参加者は九州十四名、関西五名、中部二名、関東六名の計二十七名でした。大まかな行程は次の通りです。

平成十九年十一月十八日(日)、それぞれ各地を出立し、午後五時過ぎ大津市の「ホテルピアザびわ湖」に集合、午後六時半から懇親会を始めました。十八歳の一別以来四十七年間、一度もお会いしなかった方も多く、記憶の糸を手繰りながらの会話、徐々に昔日の面影が甦り、「マァー久しぶり、元気にしとった！」驚きとも悲鳴ともつかぬ声があちこちで上がりました。お互いの近況を報告し合いながら、飲み・食べ・歌い、最後は「校歌」をすつ飛ばして「びわ湖周航の歌」の大合唱、そして「炭坑節」を心ゆくまで踊り、初日の宴は幕を閉じました。

翌十九日(月)は、ホテルの眼

前に広がるびわ湖の朝を満喫し、午前九時にホテルのバスで出立、まず坂本の「日吉大社」を参詣しました。今を盛りと境内を彩る紅葉の中を散策し、国宝や重要文化財に指定された建物群を拝見しました。「日吉大社」は比叡山延暦寺の鎮守社とお聞きし、織田信長の比叡山焼き討ちなどが思い浮かび、感慨深いものがありました。

また、「日吉大社」の参道には、前夜、永幡昶恵さんから、必ず見るように勧められた「穴太衆積み」といわれる自然石を巧みに積み上げた石塀が随所に残っていました。この石塀は、坂本の大字「穴太」に居住した「穴太衆」と呼ばれた人々の技術によるものです。その石塀の道を歩いていると、戦国時代の人々の息吹を感じました。

その後は、電車で浜大津へ。「ミシガンクルーズ(びわ湖南湖周航)」に参加しました。船上デッキから「浮師堂」・「びわ湖大橋」・「びわ湖花噴水」などを眺め、遠く比叡山を望み、船べりを飛び交うカモメに旅情の深まりを感じました。

船内のステージでは多彩なアトラクションが催され、私たち一行

は齢六十五の同窓旅行と知られ、司会の方や乗船の皆様から特別なもてなしを頂きました。皆、童心に返り大いにはしゃぎ、普段は味わえないgoodな時間でした。

下船後、京都駅に向かい、午後三時ホームにて、次回の卒後五十年同期会での再会を約束し解散、それぞれの帰路に就きました。

永野基昭さんが言った
(回)健康管理に努める。
(月)旅費を少しずつ貯める。
(火)頃から家族と仲良くし、

快く出してもらえる環境を作る。この三つの努力をし、次回も元気に参加できるように、私自身を含め、お祈りいたします。

なお、十八日早朝出立組は、定期観光バスで京都観光、金閣寺、清水寺、高台寺、二年坂、三年坂のコースを巡りました。京都での面白いハプニングもありますが、泣く泣く割愛させていただきます。終わりに、この旅行のすべてで細やかな心遣いをしてくださった市吉(宇佐見)淳子さんに感謝を申し述べ、我が同期会の報告を終わらせていただきます。

香月(加来)保子
(昭和三十六年卒)

